

平成21年 6月13日現在

研究種目：基盤研究（C）

研究期間：2005～2008

課題番号：17560573

研究課題名（和文） 浅草・銀座・新宿・渋谷の建築機能分布からみた近代における  
東京の繁華街の形成と変遷研究課題名（英文） A STUDY THE URBAN DEVELOPMENT AT ASAKUSA, GINZA, SINJYUKU, SIBUYA FROM  
DISTRIBUTION ARCHTECTURAL FUNCTION IN MARKET PLACES AT MODERN TOKYO

研究代表者

初田 亨 (HATSUDA TOHRU)

工学院大学工学部・教授

研究者番号：10100356

研究成果の概要：

東京の主要な繁華街である浅草・銀座・新宿・渋谷の建築機能は、戦後から現代において、ショッピングを楽しむエリアの拡大により、飲食店や喫茶店、居酒屋などの分布状況が大きく変化してきていることが確認できた。4つの繁華街に共通していたのは、社交を主とする喫茶店や居酒屋などの施設における、昼と夜の性格による分布が分離してきた変化である。さらに、新宿、渋谷では、ターミナル駅前における多様な機能が混在してきた集積の変化が認められた。

交付額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2005年度	1,200,000		
2006年度	600,000		
2007年度	700,000	210,000	910,000
2008年度	900,000	270,000	1,170,000
年度			
総計	3,400,000		

研究分野：工学

科研費の分科・細目：建築学・建築史・意匠

キーワード：東京、都市、近代、繁華街、建築機能

## 1. 研究開始当初の背景

繁華街は、生活における様々な消費機能が集中する場所であり、情報を発信し続けることで、訪れた人々に刺激を与え、彼らをひきつける魅力的な性格を持っている。そして、そのような性格を持ちながら、時代の変化に柔軟に対応することで文化、経済、そしてその時代の社会をリードしてきた存在である。

近年では、情報化、国際化、少子高齢化などの急速な社会情勢の変化に対応させるため、東京都の中心部において大規模な再開発事業や集合住宅の建設が活発になり、新しい繁華街が表れようと

している。そして、バブル経済崩壊以降の不況の影響によって、中心地の不動産価値が下落したことにより、これまで減少しつづけてきた23区における人口が、増加の傾向を示している。(図1)

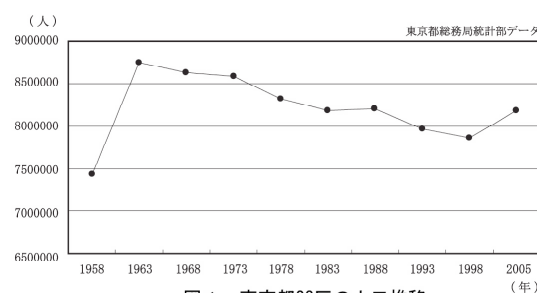


図1 東京都23区の人口推移

このように、大都市東京は、近年大きくその構造に変化を起こしつつある。これからの繁華街は、昨今の都市における大きな構造の変化の中で、豊かな都市居住者の生活を支えるために、今まで以上に生活と密接な存在となっていくものと考えられる。

東京の繁華街では、古くから寺町として栄えてきた浅草や、明治から現在まで日本の繁華街をリードしてきた銀座、郊外住宅地の発達とターミナル駅の整備によって発展した新宿、渋谷などが代表的なものとして挙げられる。このような代表的な繁華街の特性が、どのようにつくられてきたかを明らかにすることは、今後の東京における繁華街を読み解くために必要である。

## 2. 研究の目的

東京における、代表的な繁華街の生活空間を機能という視点を通して時系列から分析し、比較することで、それぞれの特性を明らかにしたものはまだない。

本研究は、近代から現代まで東京の主要な繁華街である浅草、銀座、新宿、渋谷を対象にして、それぞれ戦後から現代までの建築に割り当てられている機能の分布、およびその変遷過程を通して、生活空間としての建築機能と、都市空間の関係を明らかにすることを目的にしている。



図1 繁華街の調査範囲

## 3. 研究の方法

(1) 建築機能は、建築物単位で分類されている土地利用現況図(用途別)の凡例と、服部銈二郎の「人間と都市環境-①大都市中心部・都心盛り場『銀座』の機能と象徴性」において、都市を利用する側からの視点により分類している方法を併せて考えて、機能と施設に分類している。<sup>(1)</sup>

(2) 東京の繁華街(浅草、銀座、新宿、渋谷)について、住宅地図が共通して存在する1958年から2005年までの建築機能を約5年毎にみていく。

(3) 住宅地図からデータベースを作成し、建築機能の数量の変遷を読み取り、それぞれの繁華街を構成している主要な機能の特徴を把握する。

(4) 住宅地図よりプロット図を作成し、その変遷を読み取り、それぞれの繁華街における建築機能

を細分化した主な施設の分布の特徴を把握する。プロット図は、都市における歩行空間と密接な関係をもつ、建築物の1階を対象としている。各繁華街の施設の変遷は、その時代の居住人口や交通の変遷も併せて分析していく。

(5) 浅草、銀座、新宿、渋谷から建築機能の性格を読み取ることで、東京の繁華街における主要な建築機能の特徴を考察する。

(6) 浅草、銀座、新宿、渋谷の特徴をそれぞれ比較し、各繁華街の位置づけを考察する。

## 4. 研究成果

(1) 1958年から2004・2005年における浅草、銀座、新宿、渋谷の人口総数と鉄道の乗降者数をみると、繁華街全体における人口が調査対象年以降は、減少しており、それに対して新宿と渋谷の鉄道の乗降者数が、急激に増加している。繁華街としての歴史が比較的古い浅草と銀座では、鉄道の乗降者数に大きな変化がなく、新宿や渋谷のようなターミナル駅を利用する人々が増加している。これらは、東京の中心部から居住人口が減少し、郊外へ移ることによって、郊外住宅地と繋がり強いターミナル型駅の利用者が増加していると考えられる。(図1、2)

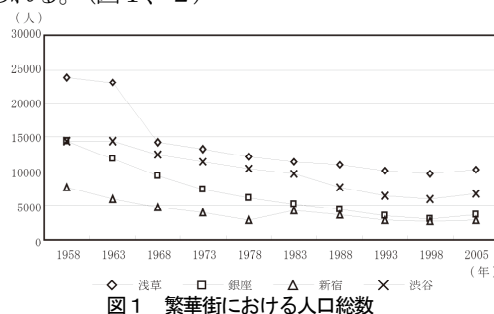


図1 繁華街における人口総数

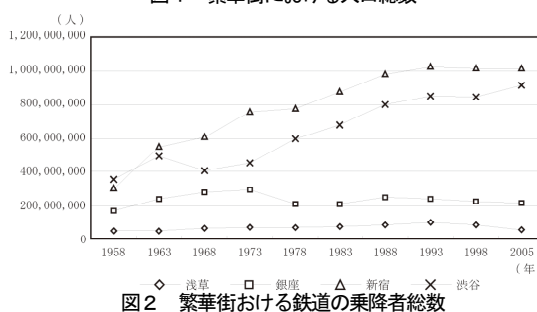


図2 繁華街における鉄道の乗降者総数

(2) 繁華街の機能別数量をみると、全ての繁華街において、買回り品販売機能、飲食食品機能、社交娯楽機能が多いことがわかった。特に、買回り品販売機能は、全ての繁華街において多く、繁華街の中心的な役割を担っていることがわかる。それぞれの繁華街の特徴としては、浅草と渋谷において住居系が多く、銀座と新宿において業務管理機能が多いことが挙げられる。(図3)

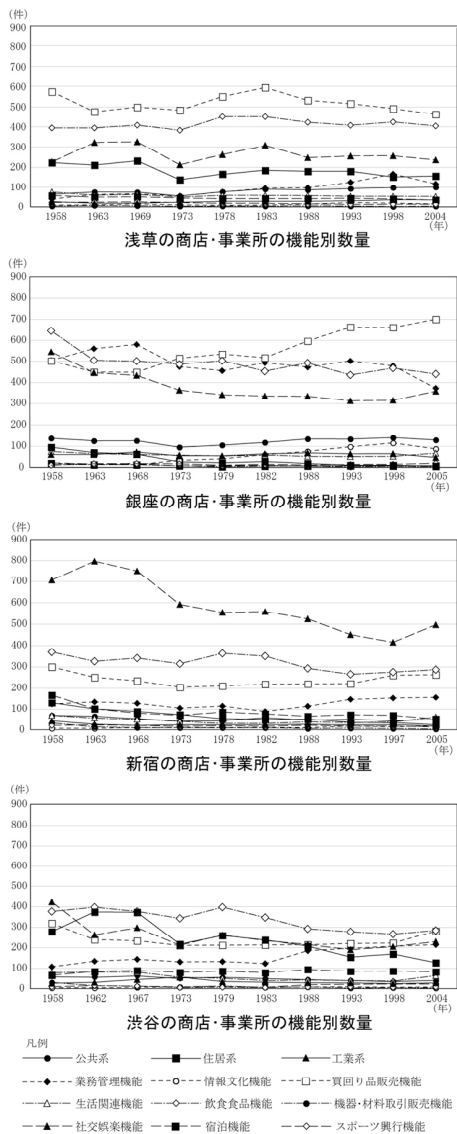


図3 繁華街の商店・事業所の機能別数量

(3) 施設をプロットした図から浅草・銀座・新宿・渋谷の繁華街をみると、古くから繁華街として発達していた浅草では、近年において、繁華街の要素を残しながら、観光地としての性格を増しているが、全体として発展が停滞している様子もみられた。浅草の繁華街の地域的な特性をみると、繁華街の中心部に浅草寺や六区のような、単一の機能が占める大きな地域をもつため、近年になるにつれて繁華街全体の南北の性格が分かれており、駅と繋がりをもつ南側にある新仲見世通りに繁華街としての性格を残し、北側は衰退してきている。銀座においては、繁華街の全体に張り巡らされている交通網との関係や、丸の内や新橋などの周辺の特徴ある地域との関係も考えられ、ターミナル型の繁華街に比べ、鉄道の利用者が少ないにも関わらず、ショッピング街としての性格を、数量や

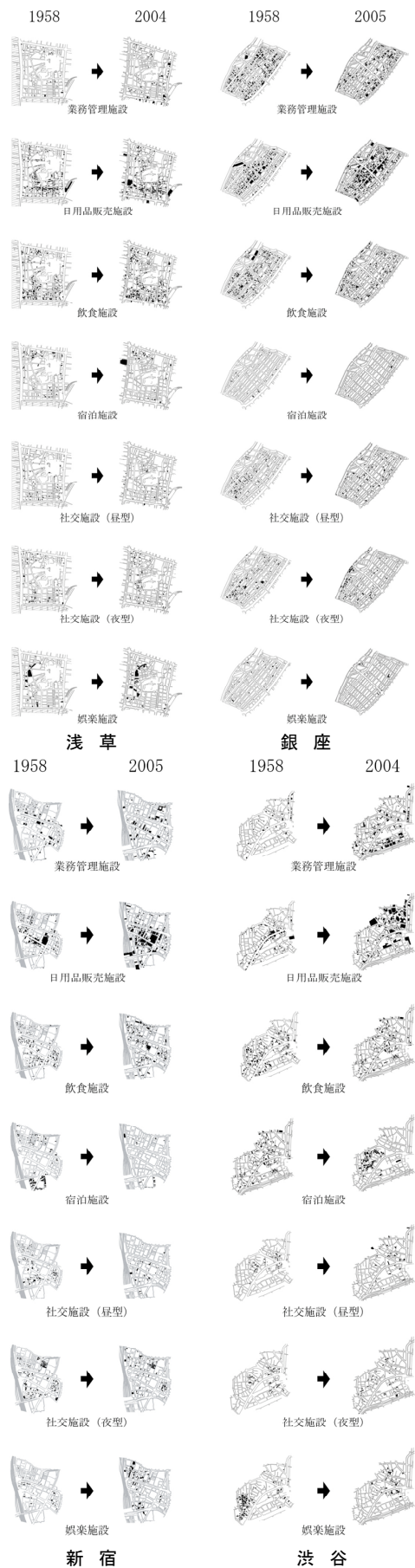


図4 浅草・銀座・新宿・渋谷のプロット図

規模とも増している。新宿では、繁華街の中心を通る幅員の大きな通り沿いに、ショッピングを中心とした日用品販売施設の拡充をみせており、その他の施設の分布が周縁に移動している。渋谷では、通りにあった日用品販売施設の線的な分布が、近年になるにつれて、それまでの分布と異なる渋谷駅の北側に、面的な拡充をはじめ、ショッピング街をつくりだしている。さらに、西側の住宅街との間にまとまった宿泊施設によるホテル街をつくり、繁華街との関係を隔てている。

このようにみると、比較的古い繁華街である浅草と銀座では、繁華街として調査対象年以前より存在している主要な通りに、日用品販売施設が集積しており、新宿と渋谷については、ターミナル駅の利用者数の増加によって、駅周辺とそこへ通じる主要な通りに日用品販売施設が高密度に集積していることから、近年の繁華街において日用品販売施設が中心的な役割を担っていることがわかった。(図4)

(4) 浅草・銀座・新宿・渋谷の繁華街における施設の変遷の特徴として、近年では、全体的に業務管理施設が増加しており、オフィス街としての性格が増していることが挙げられる。さらに、技能習得施設や機器・材料取引販売施設、スポーツ施設は、繁華街と関係が薄いこともわかった。飲食食品機能のなかでも特に多い飲食施設については、各年代を通して繁華街の全域に、他の機能の間を埋めるように分布している。この機能は、年代を問わず、他の機能にあまり影響されない、繁華街の主要な要素であることもわかった。さらに、社交娯楽機能も飲食食品機能と同じように、繁華街の全域に分布しているが、その内容が明らかに異なっている。なかでも、社交施設(昼)と社交施設(夜)が大きく異なった変化をみせており、年代が新しくなるにつれて、明確になってきている。調査対象年初期には、同じ場所に地域的な特徴を形成していた社交施設(昼)と社交施設(夜)が、年代が新しくなるにつれて、場所との関係に変化がみられた。社交施設(昼)は、飲食施設の繁華街における性格と近いものになってきたことがわかる。それに対して、社交施設(夜)は、繁華街の周縁部において、夜型の場所を形成するようになってきている。

新宿や渋谷では、繁華街の発展によって住居が減少し、それに伴い住居系に付随する機能である、生活関連機能や食品販売施設が減少してきた。しかし、生活関連機能と食品販売施設は、近年にお

いて住居が無い場所にも集積しており、居住者からオフィスや店舗で働く、労働者にその対象を変化させてきたことが考えられる。

(5) 最後に、全年代を通してみると、数量において、浅草と銀座は、買回り品販売機能、新宿では社交娯楽機能、渋谷では飲食食品機能が多く、それぞれの繁華街を特徴づける機能となっていることもわかった。そして、調査範囲の交通網と繁華街における機能の分布をみると、近年になるにつれて、駅が存在が繁華街の中心的要素である買回り品販売機能の分布に影響を与えており、このことにより外部からの来訪者を大量に運ぶことができる駅が、繁華街が発展する範囲に関して重要な要素になってきていることがわかった

注1) 本研究では、繁華街の持つ機能の歴史の変遷を住宅地図や火災保険地図など商店・事業所の各機能を特定できる地図をもとに調査・分析を行っている。また、資料の共通性を図るため、東京都で資料を作成し、各区で発行されている土地利用現況図の凡例をもとに、それぞれの機能を分類している。商店・事業所の機能は、公共系、商業系、住居系、工業系の4つの系に分類し、それを以下のような16の機能に分類している。地図から特定できた割合は、74.1%から96.88%で、繁華街のもつ傾向がある程度つかむことが可能であると考えられる。

- ・公共系 (官公庁機能—官公庁施設、教育文化機能—教育文化施設・宗教施設、厚生医療機能—厚生医療施設、供給処理機能—供給処理施設、交通関連機能—交通関連施設)
- ・商業系 (業務管理機能—業務管理施設、情報文化機能—情報提供施設・技能習得施設、買回り品販売機能—日用品販売施設・趣味品販売施設、生活関連機能—生活関連施設、飲食食品機能—飲食施設・食品販売施設・嗜好品販売施設、機器・材料取引販売機能—機器材料取引販売施設、宿泊機能—宿泊施設、社交娯楽機能—社交施設(昼型)・(夜型)・娯楽施設、スポーツ興行機能—スポーツ施設・興行施設)
- ・住居系 (住居専用機能—独立住宅・集合住宅)
- ・工業系 (工業機能—職人製作所・倉庫駐車場)

## 5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 15 件)

①猪野俊幸、初田亨、奥田真史、梨子田勉、銀座における建築機能・施設の定着期間からみた場所の特性(1953-2005)、工学院大学研究報告、第104号、95-102、2008、査読無し

②梨子田勉、初田亨、猪野俊幸、奥田真史、渋谷駅西口周辺における建築機能・施設の定着期間からみた場所の特性(1958-2004)、工学院大学研究報告、第104号、103-110、2008、査読無し

③深澤剛、初田亨、川島一記、新宿駅東口周辺における1902年から2005年までの商店・事業所の建築機能分布からみた都市の歴史の変遷、工学院

大学研究報告、第 104 号、111-118、2008、査読無し

④奥田真史、初田亨、猪野俊幸、梨子田勉、浅草における建築機能・施設の継続状況からみた都市・浅草の編成(1949-2004)、工学院大学研究報告、第 104 号、119-126、2008、査読無し

⑤初田亨、繁華街の形成と発展、東京都江戸東京博物館研究報告、No. 13、33-40、2007

⑥大塚篤、初田亨、書籍からみた関東大震災後の商店建築における店頭計画、日本建築学会計画系論文集、No. 616、183-189、2007 年、査読有り

⑦前田忠史、初田亨、繁華街・銀座における昭和 28 年から平成 11 年までの建築機能からみた都市の変化、生活文化史、52 号、34-49、2007、査読有り

⑧西岡大輔、梨子田勉、初田亨、1936 年から 2004 年における商店・事業所の分布からみた渋谷駅西口周辺の変遷、工学院大学研究報告、第 102 号、2007、査読無し

⑨前田忠史、初田亨、繁華街・銀座における明治 10 年代後半から昭和 10 年までの建築機能からみた都市の変化、生活文化史、50 号、103-127、2006、査読有り

⑩平井充、初田亨、内野伸勝、小黒康典、西岡大輔、商店・事業所の機能分類について—東京の繁華街に関する都市・建築史の研究 その 1、工学院大学研究報告、第 100 号、123-127、2006、査読無し

⑪小黒康典、初田亨、内野伸勝、西岡大輔、平井充、商店・事業所の機能分布からみた都市・浅草の変遷(1921-2004) 東京の繁華街に関する都市・建築史の研究 その 2、工学院大学研究報告、第 100 号、129-136、2006、査読無し

⑫平井充、初田亨、内野伸勝、小黒康典、西岡大輔、商店・事業所の分布からみた都市・銀座の変遷(1963-2005) 東京の繁華街に関する都市・建築史の研究 その 3、工学院大学研究報告、第 100 号、137-144、2006、査読無し

⑬内野伸勝、初田亨、平井充、小黒康典、西岡大輔、商店・事業所の機能分布からみた都市・新宿駅東口周辺の変遷(1933-2004) 東京の繁華街に関する都市・建築史の研究 その 4、工学院大学研究報告、第 100 号、145-152、2006、査読無し

⑭西岡大輔、初田亨、内野伸勝、小黒康典、平井充、商店・事業所の機能分布からみた都市・渋谷の研究(1958-2004) 東京の繁華街に関する都市・建築史の研究 その 5、工学院大学研究報告、第 100 号、153-160、2006、査読無し

⑮初田亨、繁華街にみる近代の消費空間と都市づくり、都市計画、第 257 号、14-17、2005、査読無し

[学会発表] (計 2 件)

①平井充、初田亨、東京の繁華街(浅草・銀座・新宿・渋谷)における建築機能からみた 1958 年と 2004・2005 年の比較、日本建築学会、2008 年 9 月 20 日、広島大学

②平井充、初田亨、建築機能からみた浅草、銀座、新宿、渋谷における繁華街の変遷と比較、日本建築学会、2007 年 8 月 30 日、福岡大学

[図書] (計 2 件)

①初田亨、河出書房新社、図説・東京 都市と建築の一三〇年、2007 年、160 ページ

②三枝進、川本三郎、初田亨、銀座 街の物語、2006 年、128 ページ

[産業財産権]

○出願状況 (計 1 件)

○取得状況 (計 1 件)

[その他]

6. 研究組織

(1) 研究代表者

初田 亨(HATSUDA TOHRU)  
工学院大学工学部・教授

(2) 研究分担者

なし

(3) 連携研究者

なし

(3) 研究協力者

平井充 (HIRAI MITSURU)  
工学院大学大学院後期博士課程 3 年